科目名			担当教員	
社会福祉援助技術実習指導Ｂ			三浦 剛／高橋 誠一／元村 智明／芳賀 恭司／高野 亜紀子／清水 冬樹／眞嶋 智彦／二渡 努／石附 敬ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CP5191	2	2	SR（講義）	4 年以上
履修登録条件		「実習指導 A」をすでに履修登録済みで、「演習 C」と「実習」を同時に履修登録する方のみが履修登録できます。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※履修の前提科目は『学習の手引き』の「社会福祉士国家試験受験資格」をご参照ください。
※本科目は 2026 年度までの開講となります。2027 年度以降は、新カリキュラムの実習指導をご受講いただきます。
※2009 年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008 年度以前入学者、福祉心理学科の方は、履修することはできません。
※「実習指導Ｂ－1」「実習指導Ｂ－2」「実習指導Ｂ－3」に分割されており、すべてのスクーリングを同一年度内に受講しなければなりません。同一年度内に受講ができなかった場合は、「実習指導Ｂ－1」からあらためての受講になります。
※「実習指導Ｂ－1」は「演習Ｃ－1」と、「実習指導Ｂ－3」は「演習Ｃ－2」と 2 日間連続でのスクーリング受講が必要となります。
※スクーリングを欠席された方は、「社会福祉援助技術実習」は受講・単位修得できません。
※今後の実習受け入れ状況などにより、ここに記載の内容・日程を変更する場合があります。『実習の手引き』や通信教育部 HP 掲載の『With』でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉援助技術（相談援助）実習の意義について理解し、具体的かつ実践的な技術等を体得することを目的としています。

相談援助実習にかかわる個別指導ならびに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について、事例等を通じて具体的かつ実際的に理解し、かつ実践的な技術等を学修します。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。

具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を併せて修得することを目的とします。

■到達目標

１）プライバシー保護と守秘義務について法的基準や方法の説明ができる。
２）実習記録の記録内容を理解し、実際に記録できる。
３）実習施設・機関業務、周辺社会資源について具体的に説明できる。
４）実習課題を整理し、専門職としての今後の課題を説明できる。
５）援助技術理論に沿って具体的な社会福祉士像をつくり、他者に伝えることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■単位の認定方法

レポート 20%＋実習評価 50%＋実習記録 30%で評価します。

単位認定通知は、「実習指導Ｂ−3」スクーリング受講後 1 カ月程度で書面にて通知します。

■教科書・参考図書

【教科書】（「実習指導Ａ」「実習」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］８ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規出版、2021 年

（最近の教科書変更時期）2026 年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

１）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１２ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、２０２１年

２）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１１ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、２０２１年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

・この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
・１クラス 20 人以内の少人数で開講します。
・受講料は 10,000 円となります。
・受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。
・スクーリング開講日・申込締切日は、通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。
・申込方法は、『実習の手引き』や通信教育部 HP 掲載の『With』またはポータルサイトで案内します。
・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
・申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■実習指導Ｂ　スクーリング受講条件

① 実習申込受理判定に合格していること。
② 「実習指導Ａ」スクーリングを受講済みであること。
③ その他、『実習の手引き　第 1 分冊』も参照してください。

■スクーリング申込方法

※申込みに関するご案内および申込用紙の配付は、「実習指導Ａ」スクーリング時に行います。

※各課題の提出締切日は通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング　情報ブック』を参照してください。

「実習指導Ｂ－1」　申込締切：3／15

➡「演習Ｃ－1」とセットでの申込み（正科生の実習受講者）。

「実習指導Ｂ－2」　申込締切：3／15

「実習指導Ｂ－3」　申込締切：6／30

➡「演習Ｃ－2」とセットでの申込み（正科生の実習受講者）。

■スクーリング開講予定

※詳細は通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング　情報ブック』を参照してください。

「実習指導Ｂ－1」（会場：各地　開講時期：４月）

➡翌日の「演習Ｃ－1」とセットでの受講（正科生の実習受講者）。

「実習指導Ｂ－2」（会場：各地　開講時期：６月）

「実習指導Ｂ－3」（会場：各地　開講時期：8～11 月）

➡翌日の「演習Ｃ－2」とセットでの受講（正科生の実習受講者）。９月末卒業希望者は、８月下旬の仙台会場のみ。

■実習指導Ａ・Ｂスクーリング受講料

「実習指導Ａ・Ｂスクーリング受講料」は合計 20,000 円となります。「実習指導Ｂ－1」許可時に請求予定です。納入期限は 5／10 です。

■スクーリングで学んでほしいこと

相談援助実習にかかわる知識と技術について、事例等を用いた個別指導ならびに集団指導を通して、具体的に理解し、実践できるようになることを目標とする。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての総合的な能力を身につける。併せて、これまでの具体的な学習体験を、概念化し理論体系のなかに位置づけることができる能力を身につける。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	相談援助に係る知識と技術に関する理解	専門性の理解（倫理綱領含む）
2	プライバシー保護と守秘義務の理解	プライバシー保護・守秘義務の理解
3	実習記録の記録内容及び記録方法に関する理解	実習記録の記録内容・記録方法
4	実習計画案の作成指導①	実習課題の整理
5	実習計画案の作成指導②（地域別実施）	実習課題の達成方法
6	実習施設関連の基本的理解（地域別実施）	社会資源の把握
7	実習課題の整理①	価値・倫理・知識・技術に関する課題の整理①
8	実習課題の整理②	価値・倫理・知識・技術に関する課題の整理②
9	全体総括①	実習の評価・総括①
10	全体総括②	実習の評価・総括②

■講義の進め方

1）～4）は実習事前指導 B-1、5）6）は実習事前指導 B-2、7～10）は実習事後指導 B-3 として行います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

事前課題（後述の「■レポート課題」課題 1）に取り組んでおくこと。

レポート学習

■在宅学習 12 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワーク実習の仕組み (序章)	ソーシャルワーカーの役割、ソーシャルワーク・コンピテンシーについて理解する。	講義と演習と実習の循環のなかでソーシャルワークを学ぶことについて理解し、コンピテンシーとその行動について確認してください。 なお、第 1 回から第 5 回までは、実習前学習となります。 そして第 7 回から第 15 回までは、実習後の確認になりますが、実習に取り組むべき 10 項目にも関連するため、予め確認されることで実習計画が作成しやすくなります。
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造 (第 1 章)	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義と目的を理解する。	ソーシャルワーク専門職養成における実習および実習指導の意義と目的、実習の展開、倫理と原則、実習に際しての自己学習、実習におけるスーパービジョンや教育評価、実習の構造、リスクマネジメントについて学んでください。
3	実習先決定に向けた準備 (第 2 章)	実習先の情報収集の方法、実習記録の書き方、ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関について理解する。	実習に向けた実習先の情報収集の方法、自己学習を行うことで実習先の利用者への理解を深める。 講義で学んだ分野・領域の知識をもとに実習時の「記録」作成の意義・書き方・留意点を理解する。 ソーシャルワーク実習の位置づけや実習を行う施設・機関の理解を深める学びをしてください。
4	実習先決定後の準備 (第 3 章)	実習先決定後の学習内容と方法、実習計画の作成の意義、事前訪問・事前打ち合わせが必要なことを理解する。	実習先決定後には、実習施設・機関の情報収集（基本情報・職員情報・利用者情報・地域情報）と関連する社会資源の把握・活用・開発への理解が重要です。 そのうえで実習計画作成の意義と内容について理解してください。 そして事前訪問や事前打ち合わせの必要性について理解してください。
5	実習中の学習 (第 4 章)	実習中に行うべき学習内容について実習前に理解する。	実習中に行われる実習スーパービジョンの意義や実習中評価、実習中に生じた悩みや起こり得る可能性のある問題（トラブル）の種類について予め理解してください。

6	実習後の学習 (第５章)	実習後の評価活動の意義と方法、事後学習の目的と方法、実習成果の報告する目的について理解する。	実習後には評価が行われることの意義について理解し、事後学習の目的と方法としたソーシャルワークの体系的理解、実習成果の報告する目的とその方法について確認してください。 以下の各回は、ソーシャルワーク実習で取り組んだ 10 項目についての再確認の学習となります。 なお、実習先決定後に一読し、実習で求められる内容を確認することも重要です。
7	権利擁護活動 (第６章第１節)	権利擁護活動とその評価を学ぶ意義について理解する。	利用者やその関係者への権利擁護活動およびエンパワメント、尊厳を守る意味、ストレングスについて説明ができるように学んでください。
8	人間関係の形成および援助関係の形成 (第６章第２節第３節)	基本的なコミュニケーションによる人間関係形成の意義と援助関係形成の意義について理解する。	利用者やその関係者との基本的コミュニケーションを基本にして人間関係の形成から信頼関係の構築、そして援助関係の形成まで説明ができるように学んでください。
9	支援計画の作成と実施 (第６章第４節)	支援計画作成について理解する。	利用者や地域の状況の理解から、ケースの発見、エンゲージメント（インテーク)、事前評価（アセスメント)、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と評価、アフターケアの展開について説明できるように学んでください。
10	多職種連携とチームアプローチ (第６章第５節)	多職種連携とチームアプローチについて実践的意義を理解する。	ミクロ・メゾ・マクロのなかで多職種連携やチームアプローチについて学んでください。
11	実習先の地域社会での役割と働きかけ (第６章第６節)	施設・機関等が地域社会で果たす役割と具体的な地域社会への働きかけについて理解する。	施設・機関の役割を説明できるように、地域社会で具体的に取り組んでいる事業や活動について把握し、関係機関関や地域住民に説明できるように学んでください。
12	分野横断的･業種横断的な関係形成 (第６章第７節)	地域社会における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する。	実習先を中心とした地域社会における分野横断的・業種横断的な社会資源について把握し､事業やサービスを中心とした分野横断的･業種横断的な社会資源との関係性の理解やその関係を形成する方法を説明できるように学んでください。
13	社会資源の活用･調整・開発 (第６章第８節)	地域社会の社会資源の活用･調整･開発について理解する。	地域社会における分野横断的・業種横断的な社会資源を把握し、問題解決に向けた活用や社会資源の開発、社会資源の調整方法について説明できるように学んでください。
14	施設･機関等の経営やサービス管理運営 (第６章第９節)	施設・機関等の経営やサービス管理運営（第６章第９節）	実習先の経営理念や経営戦略を理解し、財政や運営方法について説明ができるように学んでください。 また、組織内の合意形成やその方法についても確認し学んでください。

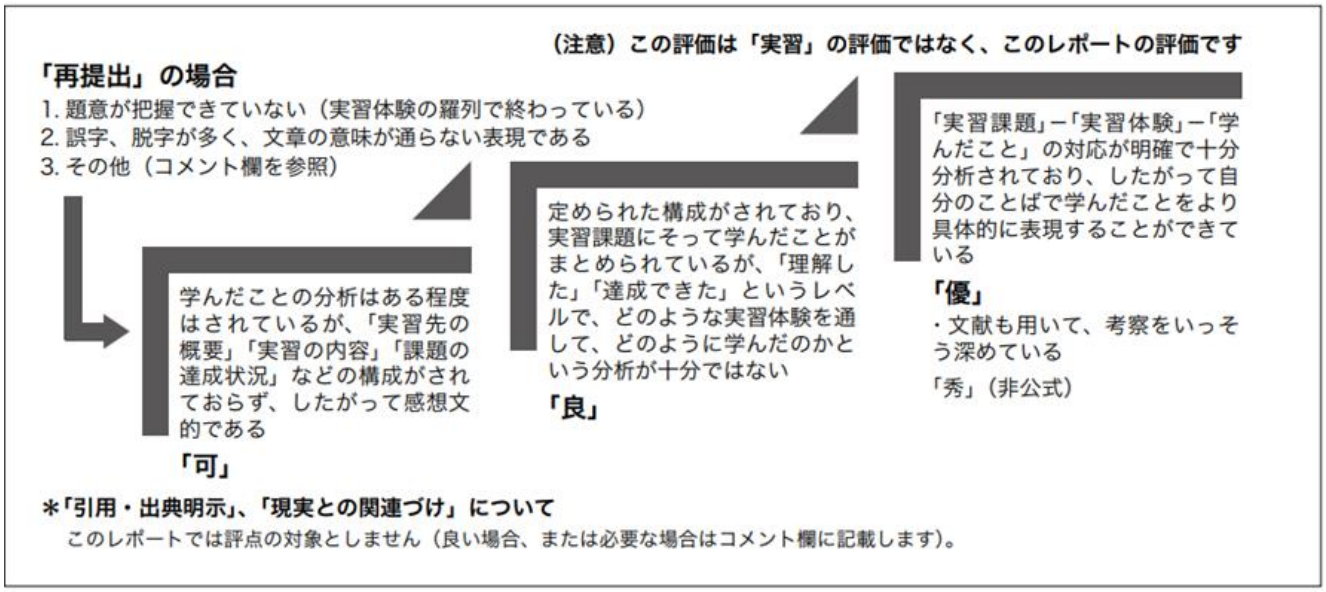
15	社会福祉士の職業倫理とソーシャルワーク実践の技術 (第 6 章第 10 節・第 12 節)	社会福祉士としての職業倫理と組織人としての役割と責任、具体的なソーシャルワーク実践の技術について理解する。	社会福祉士の倫理にもとづく実践と倫理的ジレンマの解決、施設・機関の諸規則について学んでください。 特に、ソーシャルワーク実践に必要なアウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャル・マーケティング、ソーシャルアクションについて説明ができるように学んでください。

■レポート課題

課題１	**（実習指導 A スクーリング受講後）** 実習先に対応した「実習計画案」を作成してください。その場合、実習のねらい（この実習で学びたいこと、この実習先・種別を選んだ理由・動機、将来に向けての希望等を明確にすること。また、実習課題を明確にすること。（これまで「実習指導Ａ」で学んだ利用者、業務、専門性などに関する課題） ※『社会福祉援助技術実習の手引き 様式集』の「様式 7-1～4（下書き用)」を使用。 ※ 必ず鉛筆書きで作成しコピー1 部（A4 サイズ、両面コピー不可）を大学へ提出すること。 ※ 原本は保管しておくこと。 ※ 返信用封筒を同封すること（定形封筒なら 110 円切手貼付、あて先明記。または第 4 種郵便でも可)。 ※ 提出締切日は、『試験・スクーリング 情報ブック』を参照してください。 ※ 添削を受けた後に修正した「実習計画案」を「実習指導Ｂ－1」スクーリングに持参してください。
課題２	**（実習先への事前訪問学習後）** 実習計画案「課題 1」をより具体化させて、「実習計画書」を作成してください。その場合、実習を通して学びたいこと、学ぶための具体的な方法などを詳細に記載すること。 ※『社会福祉援助技術実習の手引き 様式集』の「様式 8-1～6」を使用すること。 ※ 課題 1 で作成した実習計画案を基にして作成すること。その際、教員や実習先による添削内容を参照し作成すること。 ※ 鉛筆書きで作成し、実習開始 1 カ月前までにコピーを大学へ 2 部、実習先へ 1 部提出（FAX、E メール不可)。
課題３	**（実習終了後）** 実習で学んだ内容を分析・考察してください。単なる感想にならないよう注意してください。 ※ 内容は、はじめに実習施設の概要、実習内容、実習課題の達成状況、全体のまとめ（今後の課題も含む）を記載してください。その他の項目を追加しても構いません。 ※ 通常のレポート提出台紙を使用して提出してください（字数 4,000 字程度)。 ※ 提出締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』をご参照ください。
課題４	**（実習終了後）** 完成させた『社会福祉援助技術実習　課題ノート』を提出してください（すべて手書き)。 ※ 「実習指導Ｂ－3」スクーリングに持参してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

主体的に取り組んでください。また、教科書は必ず熟読してください。課題１・課題２については、教科書や『ソーシャルワーク実習の手引き　第２分冊』を参考にしてください。

【課題３レポート講評の基準】